

令和7年度 第3回 新井小学校 学校運営協議会 記録

日時： 令和7年9月4日（木） 13時30分

場所： 新井小学校 会議室（相談室）

以下、敬称略

1. あいさつ （市川市立新井小学校校長 清水 晴子）

清水校長よりあいさつ。

2. 協議

（1）「前期の学校評価について」（稗田教頭より）

令和7年度学校評価結果「新井小」（児童・保護者）と「市川市」（児童・保護者）を比較。

「困ったことがあった時に相談できる先生がいますか」→「そう思う」と回答した児童が市では44%だったのに対し、新井小では53%だった。「ややそう思う」も合わせると83%であり、肯定的な回答が多かった。

「地域の方たちと共に学ぶ機会がありますか」→肯定的回答をした児童が市では54%、新井小では46%。どのような活動がそうした機会に該当するかを理解していないのかもしれない。一方で、保護者は肯定的な回答が市より多い結果となった。

（自由記述から）

「宿題を学校でやることの可否について、全校で統一すべきではないか」というご意見があった。学年ごとの発達段階・学習状況に応じて決めているため、今のところ全校で統一する予定はない。

「気温が高い中での校庭体育は危険ではないか。鉄棒やのぼり棒も熱くなるためやけどの心配もある」というご意見があった。新井サーキットのショートバージョンや別の準備運動も検討していく。

「学校からの連絡を紙ではなくデータで行ってほしい」というご意見があった。一目でわかる・掲示できる・記入できる等、紙媒体の利点もある。データでの送付と併用で行っていく。

（委員より）

Q.前もってこうしたデータを送ってもらえれば、時間をかけて読んでから臨めるのだが…。

A.新井小の結果のみであれば送れるが、市の結果は時間がかかる。可能な限り対応したい。

Q.「タブレットの活用」について、保護者は否定的な回答が目立つ。家庭学習等でタブレットを使用する機会を増やすことで、変化があるのではないか。

A.1年生にはそもそもタブレットが貸与されていなかったこともある。1年生用のタブレットは11月に納品される予定。

Q.「困ったとき」とは？ こういう時はこの先生に、などは決められているのか？

A.現在、担任だけでなく、養護教諭やみらいおんルームの職員、ことばの教室の教員、管理職も含め、多くの職員が対応している。役職や分掌という枠にとらわれず、新井小には全職員が幅広く対応する土壌がある。

Q.学校として、少しでも数値を上げたい項目はあるか？

A.タブレット活用が挙げられる。児童にはタブレットを文具の1つとして使用できるようにさせていきたい。ICT活用は世の中の動きに照らすと避けて通れない。職員の勉強も必要。試行錯誤し、無理のない範囲で進めていきたい。

(2) 地域から見た学校 求める学校像や子供像についての意見

(清水校長) 地域サポーターによる支援、オープンチャットで募るシステムが構築されていることが素晴らしい。

(地域学校協働活動推進員・新居) このオープンチャットに個人同士のつながりはなく、プライバシーは保護されている。現在 60 名くらい参加している。自治会や卒業生の保護者などに引き続き声をかけていきたい。

(新井自治会会長・土門) 地域自治会のお祭りにおける吹奏楽部の演奏は大変良かった。保護者や近隣地域とのかかわりが生まれる。もっとこうした機会が増えるといい。

(清水校長) 部活動は地域移行が進んでいる。職員は夏季休業中に練習のため出勤しており、働き方改革の点からも、できることと難しいことがある。そもそも夏場の暑さは児童にとって危険度が上がっている。無理のない範囲で考えていきたい。

(新井自治会会長・土門) そういうことであれば、体育館に地域の方々を招いて行う方法も考えられる。

(島尻自治会顧問・山本) 今日、この部屋に入る前に、廊下で子供が受け答えしてくれた。こうした態度、挨拶ができることが素晴らしい。いろいろあるだろうが、こういう子を育ててほしい。

3. 報告及び意見

10/5 自治会合同での防災訓練 10:00～ 広尾防災公園

4. その他

特になし